



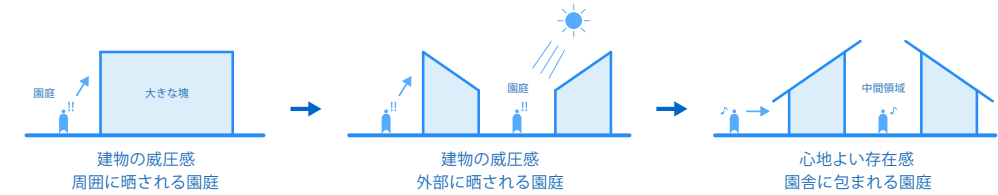
空から見る園舎。
公園のあづまやのような佇まい。

あづまやの園舎

■ 設計コンセプト

3～5 歳児（以上児）のこども達は、遊びや食事、意思表示などの行動がある程度自発的に出来ることから園舎の設計をする上でのイメージがし易い。本園は話す、歩く、食べる、考える等あらゆる行動が未熟な 0～2 歳（未満児）までのこどもを限定とした定員 12 名の保育園である。その後の人格形成に大きく影響する年齢であることから、事業主からは単なる保育としての機能だけではなく情緒の安定が求められた。建築計画として、小さなこども達の潜在意識へ安心感を与える園舎にしたいと考えた。初めて親元から離れるこども達は、それだけでとても不安な心境である。加えて初めてみる外の世界はとても強く目にうつるのではないかと感じる。大人の都合でつくられた四角い塊は威圧感を与え、外の環境は壁を通り抜けるといきなり現れてくる。そこで園舎はそのような強い世界を和らげる建築にできないか考えた。外部と内部の境が曖昧に感じる中間領域のような空間でこども達の居つくりを行いたいと思った。計画地周辺は市街化調整区域となっており、辺りは農地等が広がる開けた環境となっている。先ず敷地内のゾーニングとして駐車スペース、園舎、園庭の 3 つの配置検討を行った。

■ ダイアグラム



必要諸条件により園庭面積が僅かしか確保できない状況から、一方へ園庭を偏らせて計画するのではなく園舎内に取り込む中庭形式にすることとした。園庭を囲うような口の字型プランとし、全室が外部とのつながりを持てる平面計画となっている。次に屋根の掛け方についての断面検討を行った。園庭に対して屋根を葺き下ろすと、園舎から切り出されたような刺激の強い外部空間になってしまうと感じた。ここでは外部であっても内部に居るような錯覚を起こす、ローマのパンテオンの空間を目指したいと考え、園庭を寄棟屋根で覆い中央に採光のための開口を少し絞り気味に取った。そうすることで、内部のような外部の空間を体験でき、それがこども達にとって優しさのある場所になると考えた。また園舎のあり方としては、周辺環境を取り込んだ「街のあづまや」のような存在にしたいと考えた。あづまやは、公園など広い場所に開放された環境にありながら、人が休憩をしたり雨宿りをしたりという拠り所になっている。この地域のこども達が地域のあづまや（園舎）に集まり安心して保育生活を送ることは、ここでの一つの正解になるのではないかと考えた。

■ 建築概要

所在地	静岡県浜松市南区
計画区域	市街化調整区域
用途地域	地域指定なし
防火地域	指定なし
その他	法 22 条区域
主要用途	保育園
構造	木造
階数	地上 1 階
工期	2022 年 11 月 ～ 2023 年 3 月
最高高さ	6.58 m
敷地面積	499.78 m ²
建築面積	265.65 m ²
延床面積	238.57 m ²
建蔽率	53.16 %
容積率	47.74 %

■ 主な仕上げ

【外部】

腰壁：厚 10 モルタル金ゴテ クリア塗装

屋根：厚 0.4 艶消しカラー GL 鋼板 横葺き

【園庭】

回廊：厚 10 ゴムチップ舗装

外壁：厚 15 屋久島地杉 本実糸面突付横張り

軒天：厚 12 構造用合板 外部保護塗装

【保育室】

床：厚 12 天然木複合フローリング

腰壁：薄塗モルタル左官 クリア塗装

天井：厚 15 天然木本実突付張り 準不燃塗装

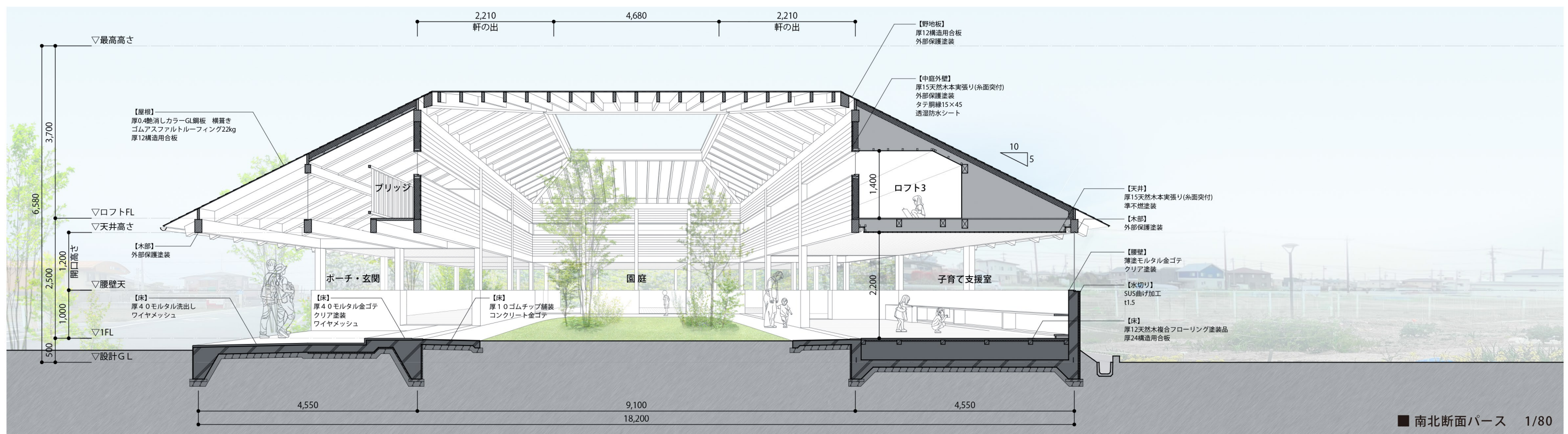
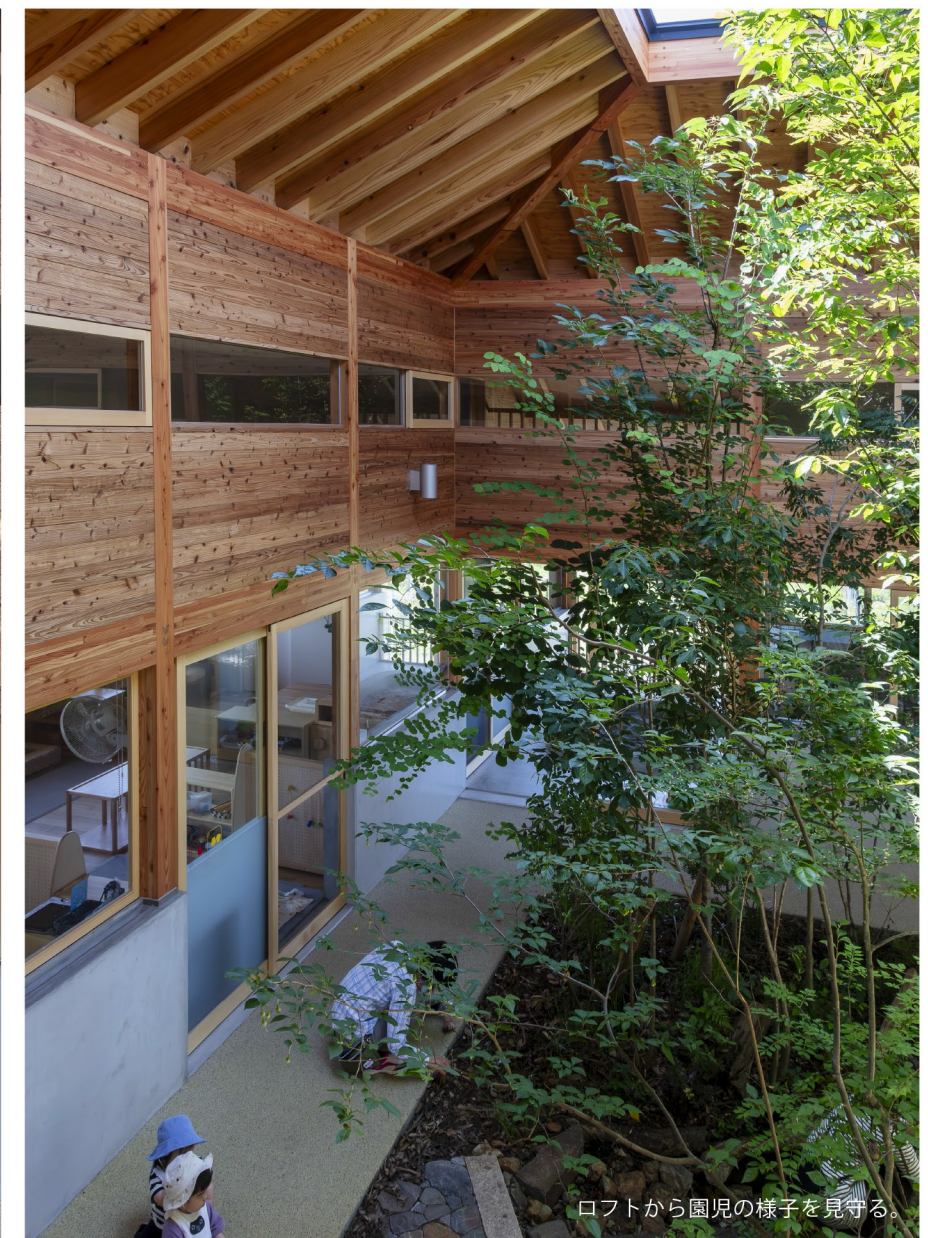
【玄関】

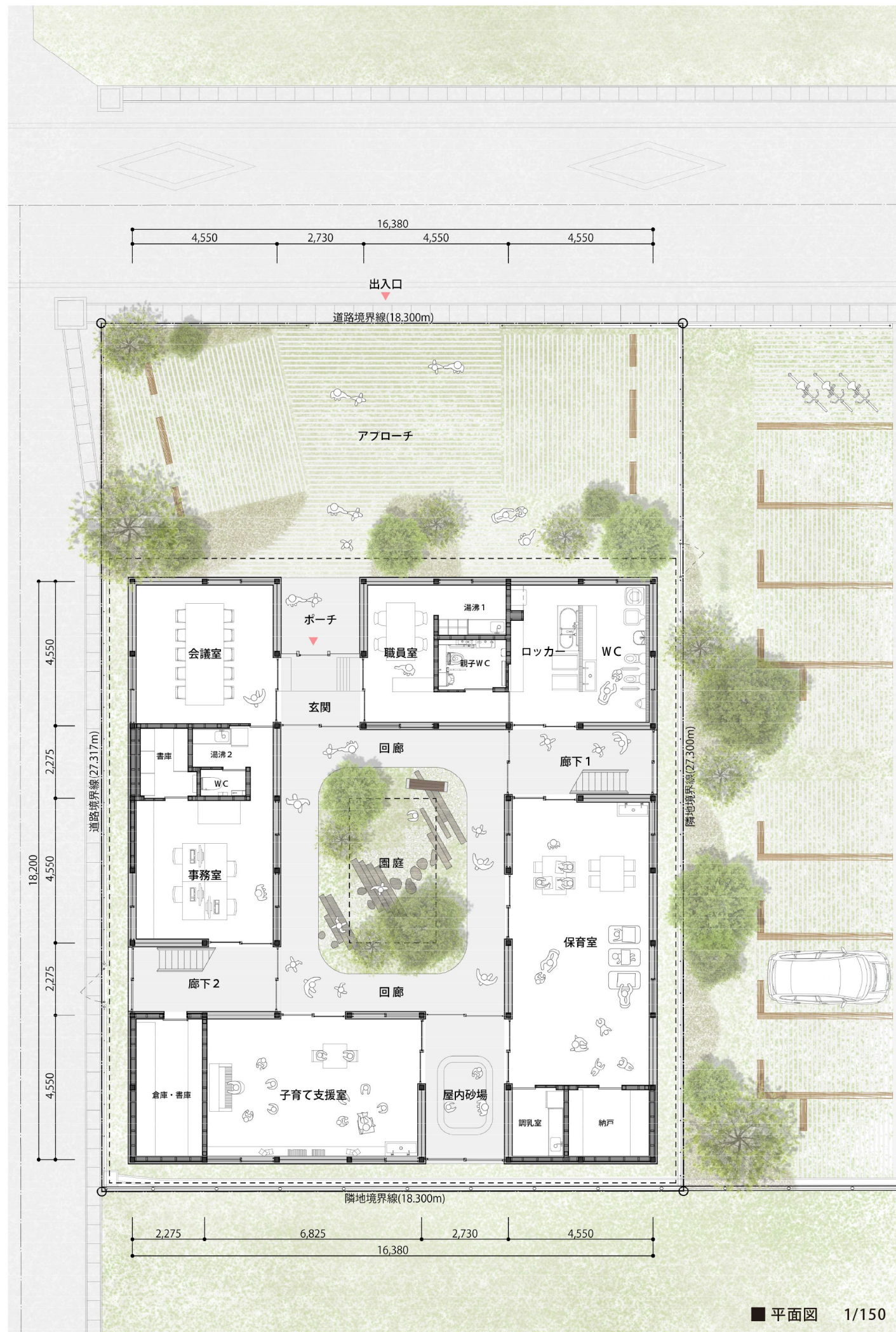
床：厚 40 モルタル金ゴテ 防塵塗装

壁：厚 10 モルタル金ゴテ クリア塗装

：厚 15 天然木本実突付張り 準不燃塗装

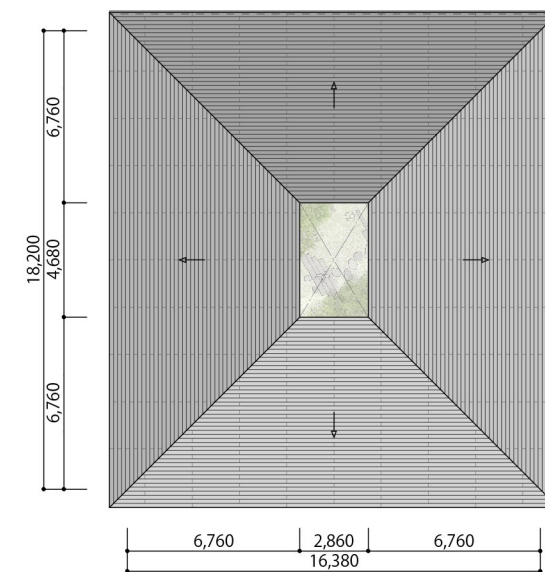
天井：厚 12 構造用合板 準不燃塗装



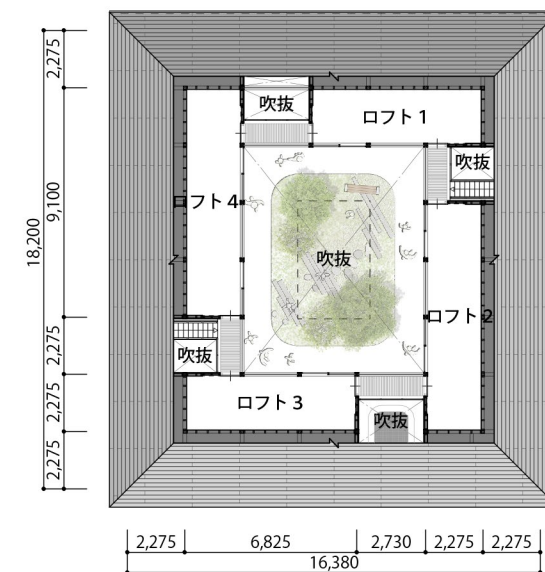


■ 園舎を構成する3つの要素

具体的な設計としては、あづまの構成部材である屋根・柱・腰壁の3つの要素に着目した。周囲を囲う腰壁は床面から高さ1mとし4つのゾーンを構成させている。腰壁へ150mm角の柱を2,275mmスパンで建て込み金物工法にてブレースの無いラーメン構造として構造計画を行った。腰下では適度に目隠しの調整を行い、腰上は可能な限り開口部としどの角度からも水平方向が風景まで連続したあづまのつくりとなっている。その上の屋根は、約16m×18mの矩形平面を1枚の寄棟屋根が包み込んでいる。屋根勾配を5寸とし外周の軒先は低く抑え、反対に中心の園庭部分では人が軒下であることを感じにくい高さを確保した。



■ 屋根伏図 1/300



■ ロフト平面図 1/300



